

令和 5 年度事業報告

自 令和 5 年 4 月 1 日

至 令和 6 年 3 月 31 日

I 事業活動の概況に関する事項

誰一人取り残さない社会を目指す国連の SDGs における 17 の目標を達成するため、日本政府は“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”をキーワードに、あらゆるステークホルダーの参画を重視し、官民の垣根を超えた形で連携を推進する方針を掲げている。また、SDGs の「誰一人取り残さない社会」とは、当法人が人と動物のより良い共生の推進の中で取り組んだ「ICAC KOBE 2015 第 4 回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015」のテーマ「One World, One Life 一ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」の目標と相通ずるものがある。これらを踏まえ、当法人は、令和 3 年 1 月、定款第 3 条を変更し、「人と動物のより良い共生の推進」と併せて「SDGs の推進」を図ることにより、人そして動物の福祉の向上に資することを目的とするとともに、第 4 条を変更し、「SDGs を進めるための知識の普及啓発」「SDGs にかかわる教育」「SDGs にかかわる情報の収集、提供、研究」「SDGs を進めるためのコンサルティング」等の SDGs 推進事業を追加し、今後ステークホルダーとして SDGs の推進に貢献していくこととした。

令和 3 年度に新たに公益事業として認定された「SDGs 推進事業 —One World, One Life—」においては、令和 3 年度より神戸市から受託の「こうべ動物共生センター管理運営業務」は、令和 6 年度も継続して管理運営業務を実施することが決定した。

以下のとおり、当年度も、人も含めた全ての動物の幸せ及び福祉の向上を実現させるため、人と動物のより良い共生及び SDGs を推進する、啓発、教育、研究等の事業を、国内外にその分野の関係団体・専門家・行政機関等に幅広く連携を求めて実施した。

1. 啓発事業

人と動物のよりよい共生を進めるための知識の普及啓発や情報交流、情報提供を行うために、国際会議、シンポジウム、セミナー、展示会、イベント、ドッグスポーツ大会等を幅広く一般の人々を対象に実施するとともに、災害発生時には緊急的に被災者支援を行う。

正確な情報をよりの確に提供出来る様、開催にあたっては、国内外のその分野の関係団体、専門家、行政機関に幅広く協力を求め、連携のもとに行う。

また、人と動物のより良い共生に尽力した企業、団体を表彰する機会を設けたり、商品の製造・販売を通して野生動物の有効活用事業の啓発を行い、人と動物のより良い共生の推進を図る。

その他、人と動物のよりよい共生を進めるため、個人、団体、企業、行政等を対象に、人と動物の共生に係るコンサルティングも必要となるため、第一種動物取扱業（展示）の登録が必要となる。

(1) 神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議 (ICAC KOBE) One World, One Life

【令和5年度事業計画】

阪神・淡路大震災15年を契機に、人も含めた全ての動物の「いのち」に対する責任について考え、人及び動物が幸せに共生できる社会の構築を目指し、震災で多くを学んだ神戸の街から、情報交流、情報発信を行っていく為に2年に1回実施予定。「お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』に暮らすこと。それが、いのちに対する『責任』である」とし、生きとし生けるものが、この地球上で幸せに暮らせる社会にしていく為、様々な専門分野の連携のもと、私達人間に出来ることを幅広く議論する場を提供する。One World, One Lifeとは「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」という概念であり、各々のいのちに寄り添う社会構築に向け情報交流、発信を図る。会議の発表内容は後日、日英両文にてウェブ上に掲載し、無料で閲覧出来るようにする。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で開催の見込みが立たず計画できなかった。また、企業からの寄附の在り方もCSRからCSVへと変化してきたことから、これまでどおりの規模での開催は予算的にも難しく、当年度は阪神・淡路大震災30年となる2025年の開催を目指し、規模を縮小して企画を準備する予定である。

また、この国際会議の認知度を高めるために、国際会議の動物キャラクターを活用して動物キャラクターグッズ(アイテム)等を活用し会議の周知を図ってきたが、昨年度より国際会議に特化せずSDGs推進のキャラクターとした。令和元年度供用開始をしたLINEスタンプもSDGs推進キャラクターとして引き続き活用していく予定である。

【令和5年度実施】

企業からの寄附の在り方もCSRからCSVへと変化してきたことから、これまでどおりの規模での開催は予算的にも難しく、当年度は阪神・淡路大震災30年となる2025年の開催を目指し、規模を縮小して企画を進めた。開催予定は以下のとおりである。

開催日程：令和7年6月29日(日)

開催場所：神戸ポートピアホテル

また、この国際会議の認知度を高めるために、国際会議の動物キャラクターを活用して動物キャラクターグッズ(アイテム)等を活用し会議の周知を図るため、令和元年度に作成したLINEスタンプを引き続き活用してきたが、当年度より国際会議に特化せず、SDGs推進キャラクターと改めた。

(2) りぶ・らぶ・あにまるず シンポジウム

【令和5年度事業計画】

2001年より開催。国内外の人と動物のより良い共生に関わる様々な情報を、シンポジウムを通して提供している。参加費は原則無料にし、学生、一般の方などに広く参加を呼びかけている。当日の発表内容は後日、ウェブ上に掲載し、無料で閲覧出来るようにする。

今年度は、6. SDGs 推進事業「One World, One Life」におけるこうべ動物共生センター管理運営業務での「セラピー研究フィールド」の研究成果を発表するシンポジウムを開催する予定である。

【令和5年度実施】

6. SDGs 推進事業「One World, One Life」におけるこうべ動物共生センター管理運営業務での「セラピー研究フィールド」の分野は、別途講演会を開催することとし、当法人主催の人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム2024『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会－それを可能にする環境整備－』を企画し、準備を進めた。企画概要は以下のとおりである。

開催日時：令和6年10月27日（日）13:00～16:00

開催場所：神戸ポートピアホテル

《第一部》

講演：「動物が人にもたらす健康効果」

講師：谷口 優 先生（国立研究開発法人 国立環境研究所 主任研究員／地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 協力研究員）

《第二部》「人とペットが幸せに暮らせる環境整備をどのように行うか？」

事例発表①：「高齢者の住まい（サービス付高齢者住宅やペットと入れる施設事例）調査」（公益社団法人 Knots）

事例発表②：「ペットツーリズムの推進」（一般財団法人 神戸観光局 専務理事 中西 理香子 氏）

事例発表③：「ITが可能にする飼い主と地域を繋ぐ環境整備－Wan!Passの取り組み事例から－」（ペッツオーライ株式会社 代表取締役 小早川 斉 氏）

質疑応答

(3) セミナー、講演会

【令和5年度事業計画】

人と動物が幸せになるために必要な、共生に関わる様々な情報を提供し、より良い共生の推進の一助とする。シンポジウム同様発表内容については、出来る限りウェブ上に掲載し、後日無料で閲覧出来るようにする。

【令和5年度実施】

なし

(4) ドッグスポーツ大会「りぶ・らぶ・あにまらず フェスティバル」

【令和5年度事業計画】

2001年は、パブリックフォーラムとして開催し、翌2002年より初心者向けドッグスポーツ大会（飼い主さんと愛犬と一緒にフリスビーやアジリティ（障害物競走）、ダンス、カニクロス（愛犬と一緒に走るレース））として、開催。

2009年から、毎年春に行っていた「Y2 Day with Dogs」とジョイントし、動物に関わる様々な団体のご協力のもと、ドッグスポーツ大会と一緒に、身体障害者補助犬・ワーキングドッグのデモンストレーション、ライブ、神戸市犬猫譲渡制度のPRなどステージプログラムや展示も同時開催。

2016年からは、六甲山カンツリーハウスとのコラボレーション事業として開催している。

阪神・淡路大震災から5年経過時に、様々な困難を乗り越えて、楽しい時間を取り戻して貰おうと開始した事業であり、飼い主さんと愛犬に一日楽しく過ごしていただきながら、動物と暮らすことの楽しさ・素晴らしさを実感していただく。来場する犬達には、狂犬病等の予防接種を条件付けるなど、適正飼育の啓発にもなっている。人と動物の共生社会を支える飼育マナーの向上や動物との暮らしを通じての世代間交流の一助とし、人と人、人と動物の幸せな共生社会の構築に寄与するために毎年継続事業として行っている。

また、イベントとして行うことで、様々な事情で飼育が出来ない子ども達にも動物愛護教育の場として、活用されている。特に近年では、ペットと暮らすことによる人と動物双方の生理学的な好影響も明らかになってきており、高齢者や子ども達への、心理的・教育的影響とも合わせ、人類が長い歴史の中で培ってきた生物としての共生関係に基づく、人とペット双方の心身の健康への貢献についても情報共有を図る。

令和2年度をもって神戸市動物愛護協会が活動を終了されることとなり、実行委員会の構成団体等は未定であるが、令和3年度の神戸市動物愛護フェスティバル2021は11月23日（祝・火）、しあわせの村（神戸市）で開催予定だったところ、新型コロナウイルスの影響により開催できず、令和4年度も同様の理由で企画できなかった。なお、令和5年度の神戸市動物愛護フェスティバル（未定）に関しては、開催日、開催場所共に未定である。

運動会&ゲーム大会は六甲山カンツリーハウスのドッグラン事業と連携した開催とし、人と動物の共生情報発信拠点構築の一助とする。令和3年度より六甲山カンツリーハウスのドッグラン事業は縮小され、イベントとして行う形式で調整中であったが、新型コロナウイルスの影響で開催に至らず、今年度も開催日については未定である。

【令和5年度実施】

運動会&ゲーム大会は六甲山カンツリーハウスのドッグラン事業と連携した開催とし、人と動物の共生情報発信拠点構築の一助としてきた。六甲山カンツリーハウスのドッグラン事業が休止となっており、実施できなかった。

「神戸市動物愛護フェスティバル」については、実行委員会の在り方が定まらず、予算化が叶わないため実施できなかった。

(5) 「ずっと一緒に居ようよ プロジェクト」

【令和5年度事業計画】

「ずっと一緒に居ようよ プロジェクト」は、フェスティバルのメンバーが発起人となり、東日本大震災での飼主さん支援が発端となって始まった。震災での緊急時のみならず、平時においても人と動物が絆を保ち幸せに暮らせるような社会システムを構築するため、その方策を議論研究して提案し、これらの情報を発信、その実現化を支援する。

例えば、2015年の国際会議（ICAC KOBE）では、分科シンポジウムの中の1つとして「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム—伴侶（家庭）動物の暮らしを地域活性へ」というテーマで数名の方の発表があり、人と伴侶動物が地域で共に幸せな生活ができ、尚且つそれが地域の活性に活かされるような社会システムを構築することができるのか、その可能性について考察した。2016年には、このシンポジウムの成果を論文にまとめ、シニア社会学会誌に掲載されており、全文をウェブサイトにて公開、情報発信し、その実現化を支援している。

この成果を活用し、6. SDGs 推進事業—One World, One Life—の「こうべ動物共生センター」管理運営業務の公募型プロポーザルにおいて《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築を令和3年度より企画提案している。受託後は新型コロナウイルスの影響で関係部局との調整が困難であったが、当年度より《こうべ動物共生プラットフォーム》を構築していく。人と動物の共生に関わる様々な課題の解決を目指し、関連団体や動物取扱業登録事業者、関連事業の事業者、ボランティア等や原則として各地域の中学校区ごとに一つある地域包括支援センターや社会福祉協議会、自治会、病院、学校等とも連携・協働し「人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせる SDGs 視点を持ったあたたかな神戸市」を実現する。なお、上述の論文については、こうべ動物共生センターの視察・見学に来訪される自治体関係者等にも配布している。

【令和5年度実施内容】

- ・学会誌に掲載された論文を、当法人ウェブサイトに掲載し、当法人が神戸市から運営を受託しているこうべ動物共生センターの見学者等に配布し、情報発信を行った。
- ・令和6年1月1日発災の能登半島地震が激甚災害に指定されたことを受け、緊

急理事会での承認により、『ずっと一緒に居ようよプロジェクト 令和 6 年能登半島地震 被災者のペット可物件入居支援金』助成事業を開始した。（5. ペットと暮らす住まいに係る支援金助成事業でもある）

- ・事業計画に記載した《こうべ動物共生プラットフォーム》に関しては、関係部局の判断により、アウトリーチによる事業展開や高齢者とのふれあい事業を優先することとなったため実施を見合わせるようになった。※後述の「6. SDGs 推進事業 —One World, One Life—」も参照。

<広報>

- ・助成事業のページをウェブサイト公開
- ・メールマガジン配信
- ・関係団体の方々に個別でメールにてご案内
- ・プレスリリース（1月22日）

読売新聞社（1月26日取材、2月11日兵庫県地域版掲載）

共同通信社（1月24日、2月1日取材、2月20日配信）共同通信社の配信を受け、日本経済新聞夕刊社会面に掲載（2月21日）

関西テレビ（2月24日富永代表理事 被災者の心の拠りどころとなるペットの存在と災害時のペットの課題について電話取材、2月26日「news ランナー」（関西ローカル）特集枠にて放映）

<助成申込>令和6年3月31日現在1件（仲介業者からの連絡待ち）

<寄附金額>令和6年3月31日現在6件 135,000円

（6）りぶ・らぶ・あにまるず賞

人と動物の共生に尽力されている商品や企業活動を高く評価すると共に、感謝の気持ちを伝える。対象期間は1年間、毎年一般の方々の応募により、ノミネートし、選考委員の投票によりグランプリを決定する。

【選考委員】

横山 章光氏（あいわクリニック院長・精神科医）

児玉 小枝氏（フォトジャーナリスト／どうぶつ福祉ネットワーク 代表）

西田 孝廣氏（六甲山観光株式会社 取締役観光事業部長）

星 信彦氏（神戸大学教授・獣医師）

富永 佳与子（公益社団法人 Knots 代表理事）

近年、人と動物の共生に向けての事業が多様化し、同一の賞の中で判断が難しくなったこと、共生意識の高まりによって敢えての推薦が少なくなったことから、令和2年度をもってこの事業は休止とした。

【令和5年度実施】

なし

(7) イベント、ドッグスポーツ大会 六甲山カンツリーハウスわんわん ドッグフェスタ運営協力

【令和5年度事業計画】

期間限定のドッグラン、ワンちゃん大運動会、ゲーム大会等の運営協力を行う。

本事業に沢山の飼い主さん、ワンちゃんにご参加頂くことで、動物と暮らす楽しさ、幸せを実感して頂く。そのことがより良い共生推進の一助となり、利用者に狂犬病予防法の遵守を条件付けることで、飼育者の責任の認識を高めることにも寄与している。令和3年度より六甲山カンツリーハウスのドッグラン事業の縮小により、常設のドッグラン運営ではなく、ワンちゃん大運動会等のイベント開催時のみの運営となったが、新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。今年度は、今のところ六甲山カンツリーハウス（現 GREENIA）でのイベント開催は予定されていないため、実施については未定である。

【令和5年度実施】

なし

(8) 野生動物有効活用推進事業

【令和5年度事業計画】

近年、日本の各地でシカ、イノシシなどの増えすぎた野生動物による農村部での森林被害、農業被害が深刻化している。そのため、多くの野生動物達が、自然環境や生態系を守るために、有害鳥獣として捕獲されているが、その殆どが活用されないまま産業廃棄物として処理されている。兵庫県では、年間約2~3万頭のニホンジカが有害捕獲されており、兵庫県の令和3年度の農林業被害額は合わせて約2億円となっている。

このような問題に対処し、動物達の「いのち」を無駄にしないためにも、彼らの肉や骨、皮などを有効に活用していくことが、地域振興や新しい産業の創出の可能性を含め、現在大きな課題となっている。

この有効活用を進めることで、産業が生まれ、雇用機会の創出につながり、ひいては生産者の方々の生活向上の一助となる。また、自然環境や生態系が保全されることにもなる。

Knots では、有効活用推進のため、情報提供や犬用おやつの開発・製造・販売に取り組んでいる。開発、製造には、障害者の方々のみならず、実際に農業被害を受けておられる土地で生活されている主婦グループの方々にも参加して頂いており、新たな産業の創出や地域振興に挑戦している。

添加物等一切加えず、天然由来の原料で製造した、これらのおやつは品質が良く、愛好家も多い。これらの商品を手にとって頂くことで、野生動物のおかれていた現状に一般の方々にも目を向けていただくことにつながる。

また、Knots は、「野生動物研究会」※（事務局：兵庫県森林動物研究センター）の幹事を務めている。

※野生動物研究会（旧ニホンジカ有効活用研究会）とは、

兵庫県森林動物研究センターと、兵庫県内でシカ肉の有効活用に取り組んでいる企業、団体、個人が研究会を組織し、当時最大の課題であったシカ肉利用促進に向けた情報の収集、共有を図ることにより消費者のニーズにあった供給体制を研究し、シカ肉利用に関する正確な情報発信を行うことにより、需要の拡大を図り、野生動物資源利用を通じた地域振興と人と野生動物のより良い共生社会の構築に資する研究会事業を行なっていたが、シカ肉については、流通に掛かるネットワーク組織も立ち上がった為、野生動物全般に掛かる共生研究へと対象を広げることになった。

【令和5年度実施】

- ・対面で販売することで事業のPRを行うだけでなく、飼い主のニーズを聞き取ることができ、新商品開発の糸口となるため、参加可能なイベントへ出店（出展）し、播州鹿を使用した犬用おやつの販売を行った（1. 啓発事業（11）情報提供事業、4. 障害者の自立支援事業でもある）。当年度出店（出展）したイベントは以下のとおりである。

国際盲導犬デー（主催：社会福祉法人兵庫盲導犬協会）

令和5年4月29日（月・祝） 会場：しあわせの村

しあわせの村まつり（主催：公益財団法人こうべ市民福祉振興協会）

令和5年8月28日（月）／9月16日（土） 会場：しあわせの村

こうべ福祉・健康フェア（主催：神戸市／公益財団法人こうべ市民福祉振興協会／社会福祉法人神戸市社会福祉協議会／ふれあいのまちKOB E・愛の輪運動推進委員会／神戸市教育委員会／一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団）

令和5年10月1日（日） 会場：しあわせの村

動物感謝デー（主催：公益社団法人日本獣医師会）

令和5年11月23日（木・祝） 会場：上野恩賜公園

- ・ひょうごニホンジカミートと犬用クッキーの商品セットを兵庫県および神戸市のふるさと納税返礼品に登録し、返礼品希望者に商品を発送した。
- ・ひょうごニホンジカミートと犬用クッキーの商品セットを当法人に対する寄附への返礼品とし、一般寄附者に返礼品を贈った。

（9）各種コンサルティング、相談業務の実施

【令和5年度事業計画】

動物と安全に楽しく暮らすための相談対応、ペット可集合住宅での管理組合・管理会社のサポート、野生動物との関わり方等、人と動物の共生に係る様々な相談に対応。また、人も動物も快適な住まいや旅行等の商品開発の為にコンサルティングを実施。人と動物のより良い共生を推進し、人も動物も幸せにする為に、必要な相談及びコンサルティング業務を行う。令和4年度には、ドッグラン運営

やペットの入店可能なエリアを拡大する事業展開を行う企業、また、自治体からの教育事業に関する仕組みづくり等のコンサルティング依頼があり対応してきた。令和5年度はこれらのコンサルティングを継続して行うほか、新たなコンサルティング、相談に対応する。

【令和5年度実施】

<前年度からの継続>

- ・企業からのカーボンニュートラルの取り組みに関連する事業のコンサルティング依頼の対応では、専門家との面談を行った。

<新規>企業からの以下の相談に対応した。

- ・地域の活性化・犬連れ集客等に関する相談
- ・「ドッグイベント」に関する相談
令和5年10月15日（日）「ドッグヨガ・ドッグダンスショー」として尼崎城址公園芝生広場で開催されたイベントにおいて、当法人が「ドッグダンスショー」の開催協力を行った。
- ・ペットケアサービスの企画、今後の展開についての相談
- ・整備を計画中の公園について、動物とふれあえる拠点づくり（乗馬、ホースセラピー等）に関する相談
- ・抗菌スプレーに関する相談
- ・ペット用おやつに関する相談
- ・アイシャンプーに関する相談

（10）Knots MODEL CLUB

テレビや雑誌などから紹介（出演）の問い合わせが多くあったことから、これを市町村への犬の登録、狂犬病予防接種など病気予防と健康管理、しつけなどを条件として本法人で登録し、ウェブサイトにて無料で公開することで飼主さん自慢の犬が、モデル的に伴侶動物として大切にされている姿を見て頂き、広く一般の方々にも、人と動物の幸せな共生を見て頂くことで啓発する。

SNSの普及に伴い新規登録が減少していることから、新規登録については休止する。

【令和5年度実施】

なし

（11）情報提供事業

【令和5年度事業計画】

主にウェブサイト、メールマガジン等を通して、幅広く不特定多数の方々にと動物の共生及びSDGsに関わる様々な情報を提供していく。国際的な情報発信のため、ウェブサイトのAI翻訳機能などを活用している。

当年度予定：動物感謝デー出展（公益社団法人日本獣医師会主催）

ペット産業情報新聞「PIIA Knots リレー・エッセイ」記事連載
「人と（人以外の）動物の幸せな共生」をテーマに、識者の方々による
エッセイ

【令和5年度実施】

当法人の事業について広く知っていただき、人と動物のより良い共生およびSDGs 推進に役立たせていただけるよう、幅広く不特定多数の方々に人と動物の共生およびSDGs 推進に関わる様々な情報の提供を行った。

・ウェブサイトでの情報発信

当法人のウェブサイトは、人と動物のより良い共生およびSDGs 推進に関わる様々な情報を発信するだけでなく、国内外の各分野の専門家や自治体、団体、個人を繋ぎ、当法人の事業をとおして蓄積された知識や情報を、必要なときに必要な人に届けるなど、多様な役割を担っている。また、事業に関する自治体や企業、団体からのコンサルティングや視察、相談などの窓口にもなっており、当法人の名称でもある「Knots（結び目）」としての重要なコミュニケーションの場となっている。

<主な更新内容>

- 4月 PIIA Knots リレーエッセイ No.191 / 「あったらいいなシリーズ」に「米粉クッキー」新登場！
- 5月 「第21回国際盲導犬デーin 神戸」参加報告
- 7月 PIIA Knots リレーエッセイ No.192
- 8月 兵庫県多可町 SDGs オープンイノベーションプラットフォーム「クリアグリーン TAKA」発足式参加報告 / 「あったらいいなシリーズ」ハロウィンキャンペーンのお知らせ
- 9月 奈良県うだ・アニマルパーク振興室「2023 サマースクール in うだ・アニマルパーク」チャレンジ C『張り子作り教室』報告 / しあわせの村まつり出店報告 / 兵庫県多可町（内閣府認定「令和4年度SDGs 未来都市」）の広報誌紹介（SDGs についての特集記事掲載）
- 10月 「こうべ福祉・健康フェア」出店報告 / 尼崎城址公園芝生広場「ドッグヨガ・ダンスショー」報告
- 11月 第94回日本獣医史学会研究発表会報告 / PIIA Knots リレーエッセイ No.193 / 東京青山ロータリークラブ 奉仕活動 アニマルセラピー（動物介在活動：アニマルアシステッドアクティビティ）理事長参加報告 / 保護犬猫たちを幸せにする取組・神戸市ガバメントクラウドファンディング挑戦中のお知らせ / 『2023 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”』報告
- 12月 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ様 あいおいニッセイ同和神戸支店プロ会様 寄附金寄贈式のご報告

- 1月 人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム2024『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会ーそれを可能にする環境整備ー』開催のお知らせ／兵庫県および神戸市ふるさと納税返礼品「あったらいいなシリーズ」情報ページ公開／ずっと一緒に居ようよプロジェクト 令和6年能登半島地震『被災者のペット可物件入居支援金』助成募集・寄附金募集・「令和6年能登半島地震関連情報提供コーナー」ページ公開／ずっと一緒に居ようよプロジェクト 令和6年能登半島地震『被災者のペット可物件入居支援』についてプレスリリース／PIIA Knots リレーエッセイ No.194
- 2月 令和5年度「いのちの教育」研修会報告／アドバイザーボードメンバーの福地茂雄様ご逝去の訃報／日本経済新聞、読売新聞に令和6年度能登半島地震『被災者のペット可物件入居支援』掲載のお知らせ／関西テレビ番組の特集『「行方不明のペット」被災地で探すボランティア』で富永代表理事のコメントが紹介されたお知らせ
- 3月 PIIA Knots リレーエッセイ No.195／第2回奈良県「いのちの作文コンクール」表彰式報告／東京青山ロータリークラブ奉仕活動ちよだ猫まつり2024 保護猫譲渡会事務局長参加報告／第12回公益社団法人 Knots アドバイザーボードミーティング報告

・メールマガジン（Knots Club News）の配信

当法人事業の成果を広く共有し、人と動物のより良い共生およびSDGs推進に役立たせていただけるよう、メールマガジンの配信を通して、人と動物の共生およびSDGs推進に係る情報を提供した。配信先は1,400を超える。毎月1回の配信を目指し305号～320号のほか、臨時号、特集号の配信を行った。当法人が包括連携協定を締結している兵庫県多可町（6. SDGs推進事業ーOne World, One Lifeー）のSDGs推進に関する情報や、神戸市より運営を受託している「こうべ動物共生センター」（6. SDGs推進事業ーOne World, One Lifeー）の各月の参加者募集プログラムの案内およびプログラム実施報告、あったらいいなシリーズ犬用おやつ（4. 障害者の自立支援事業および1ー（8）野生動物有効活用推進事業）の開発・販売情報、他団体のセミナー情報、能登半島地震支援関連情報等、主な配信内容は以下のとおりである。

<主な内容>

- 305号：公益社団法人日本愛玩動物協会機関誌「with PETs」290号（2023年3月号）で Knots 紹介・当法人代表理事富永佳与子インタビュー記事掲載／第11回公益社団法人 Knots アドバイザーボードミーティング報告／世界のクマ研究最前線ークマが生きられる環境を未来に残したい（北海道大学獣医学研究院 環境獣医科学分野 野生動物学教室 教授 坪田敏男先生のクラウドファンディングへの挑戦） ほか
- 306号：産業情報新聞社ペット&Life「PIIA Knots リレーエッセイ」（芝崎牛の診療所・芝崎繁樹先生）／一般社団法人長崎さくらねこの会クラウ

ドファンディング達成後の経過報告／クラウドファンディング達成！
（北海道大学獣医学研究院 環境獣医科学分野 野生動物学教室 教授 坪
田敏男先生） ほか

あったらいいなシリーズ特集号：新商品「米粉クッキー」開発秘話・販売開始案内

307号：ワンちゃん手作りおやつ「あったらいいなシリーズ」新商品販売開始！／『第21回国際盲導犬デー in 神戸』参加報告 ほか

308号：ご寄贈いただいた書籍紹介 ①柴内晶子先生（赤坂動物病院・院長）よりご寄贈『「動物がくれる力」教育・福祉、そして人生』（著者・大塚敦子／岩波新書）・②講談社 アフタヌーン編集部よりご寄贈『ツレ猫 マルルとハチ』漫画単行本 1～3巻（著者・園田ゆり／講談社）ほか

309号：「クリアグリーン TAKA」発足式報告／産業情報新聞社ペット & Life 「PIIA Knots リレーエッセイ」（大阪公立大学 獣医学部 小動物臨床医学 准教授・島村俊介先生） ほか

310号：ご寄贈いただいた書籍紹介 柴内裕子先生（赤坂動物病院・名誉院長）よりご寄贈『かいくんとセラピー犬バディ』（著者・井上こみち／国土社）／柴内裕子先生の日本臨床獣医学フォーラム（JBVP）第25回
年次大会2023（9月24日（日）開催）ご講演案内 ほか

ハロウィンキャンペーン特集号：ワンちゃん手作りおやつ「あったらいいなシリーズ」ハロウィンキャンペーン開催案内／【ワンだふるなサポートを！】クラウドファンディングに挑戦中！（認定特定非営利活動法人兵庫介助犬協会）

「ペットとの災害避難マップ」作成特集号：「ペットとの災害避難マップ」を作ってみよう！（小学生対象）説明会開催のお知らせ

311号：「あったらいいなシリーズ」ふるさと納税返礼品登録のお知らせ／Knots への一般寄附に対する返礼品案内／しあわせの村まつり（8月）
出店報告 ほか

312号：神戸市「ペットとの災害避難マップ」募集中！／「あったらいいなシリーズ」第34回こうべ福祉・健康フェア 製造者 Patch との出店案内／兵庫県多可町広報誌（SDGs 特集記事）紹介／奈良県「張り子作り教室」
報告 ほか

令和5年度奈良県「いのちの教育」研修会特集号：研修会（2023年11月9日（木）奈良県うだ・アニマルパーク振興室 動物学週間にて）開催案内

313号：愛犬との絆を深めよう！尼崎城址公園ドッグイベント（2023年10月15日（日））開催案内（Knots 開催協力）／Knots 正会員・小早川斉氏運営のペッツオーライ株式会社が山梨県富士川町とペットに優しい町づくりなどで連携協定締結／しあわせの村まつり（9月）および第34回
こうべ・健康福祉フェア出店報告 ほか

こども本の森 神戸「出張！わんちゃん読書会」特集号：「こうべ動物共生センター」実施のアニマルセラピー 動物ふれあい事業「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」出張開催案内

- 314号：第94回日本獣医史学会研究発表会参加報告／ハチ公生誕100周年（東京大学農学部公開セミナー特別企画）「ハチ公学～ハチから広がる学の世界～」案内／ご寄贈いただいた書籍紹介 山下厚先生（日本獣医史学会）より御著書「ウシのきもち、ヒトのきもち－乳牛獣医師の四方山ばなし－」（一般社団法人全国酪農協会）・「続ウシのきもち、ヒトのきもち－一杯の牛乳に思いめぐらせ－」（一般社団法人全国酪農協会）／尼崎城址公園ドッグイベント報告 ほか
- クリスマスキャンペーン特集号：「あったらいいなシリーズ」クリスマスキャンペーン開催案内
- 315号：産業情報新聞社ペット&Life「PIIA Knots リレーエッセイ」（九州保健福祉大学 臨床心理学部 教授・加藤謙介先生）／東京青山ロータリークラブ奉仕活動 アニマルセラピー（動物介在活動：アニマルアシステッドアクティビティ） 理事長参加報告／『2023 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”』報告／Knots 佐藤理事ご家族運営「シカマキ写真館」の愛犬を囲んだ家族写真撮影案内／地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 研究論文情報 ほか
- ワンちゃん手作りおやつ返礼品付きご寄附のお願い特集号：ご支援のお願い
- 316号：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ様 あいおいニッセイ同和神戸支店プロ会様 寄附金寄贈式のご報告／神戸市ガバメントクラウドファンディング案内 ほか
- 317号：『人と動物の共生およびSDGs 推進シンポジウム 2024 「ペットとの暮らしを活用する豊かな社会－それを可能にする環境整備－』開催告知／加藤元先生（ダクタリ動物病院総合院長・コロラド州立獣医科大学客員教授兼アンバサダー）の「こうべ動物共生センター」セラピー研究フィールドアドバイザーご就任のお知らせ／防災わんにゃんフェスタ（2024年1月21日（日）こうべ動物共生センターにて）開催案内 ほか
- 能登半島地震関連特集号：ずっと一緒に居ようよプロジェクト 令和6年能登半島地震『被災者のペット可物件入居支援金』助成募集開始／『被災者のペット可物件入居支援金』としての寄附金募集／ずっと一緒に居ようよプロジェクト 令和6年能登半島地震「能登半島地震関連情報提供コーナー」開設
- 318号：産業情報新聞社ペット&Life「PIIA Knots リレーエッセイ」（あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 神戸支店 支店スタッフ 担当次長・和田由佳様）／産業情報新聞社ペット&Life「年頭の辞」（当法人代表理事・富永佳与子）／ちよだ猫まつり 2024 開催案内／一般社団法人東京都人と動物のきずな福祉協会がクラウドファンディングに挑戦中 ほか
- 319号：【訃報】アドバイザーリーボードメンバーの福地茂雄様ご逝去／令和5年度「いのちの教育」研修会報告／クラウドファンディング挑戦第2弾・世界のクマ研究最前線－人とクマが共に生きられる環境を未来へ（北海道大学獣医学研究院 環境獣医科学分野 野生動物学教室 教授 坪田敏男先生） ほか

320号：奈良県「いのちの作文コンクール」表彰式報告／絵本「白い犬のアオ」紹介（出版：コトノ出版舎〔当法人理事兼企画教育部長・小椋運営〕）／産業情報新聞社ペット&Life「PIIA Knots リレーエッセイ」（北海道大学獣医学研究院 野生動物学教室 教授／北海道大学総合博物館 館長・坪田敏男先生）

・リレーエッセイ

有限会社産業情報新聞社発行のペット産業情報新聞ペット&Lifeに、「PIIA Knots リレーエッセイ」としてコラムを連載している。当法人に関わりのある様々な分野の識者に執筆を依頼し、当法人のテーマである「人も（ヒト以外の）動物も幸せな共生」について多様な切り口でメッセージを頂いている。

No.191：芝崎牛の診療所・獣医師：芝崎繁樹先生

《家畜との幸せな共生実現の知恵を》

No.192：大阪公立大学 獣医学部 小動物臨床医学・准教授：島村俊介先生

《動物との新たなコミュニケーションを求めて》

No.193：九州保健福祉大学 臨床心理学部・教授：加藤謙介先生

《被災地で、ペット写真を撮って贈ること》

No.194：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社神戸支店・

支店スタッフ 担当次長：和田由佳様

《もしもの時の備えはできていますか？ ぼうさい探検隊を活用し、ペット同行避難を考える》

No.195：北海道大学大学院獣医学研究院・教授／北海道大学総合博物館・館長：坪田敏男先生

《人とクマが共に生きられる環境を未来に》

・学会誌抜き刷り冊子の配布

「第98回日本獣医史学会研究発表会」（令和2年10月17日（土）開催）で当法人・富永代表理事が発表した「（公社）Knotsの活動と25年の歩み—小さな結び目は社会を変える—」が日本獣医史学雑誌第58号（2021年2月20日発行）に掲載されたが、その発表内容が出版社により抜き刷り冊子として印刷・製本可能となったため、当法人の紹介資料として関係者に配布した。当法人ウェブサイトの団体概要のページにも掲載している。

・令和5年度 動物感謝デー

2023 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”

日時：2023年11月23日（木・祝）[10:00~17:00] ※雨天決行

会場：上野恩賜公園

主催：公益社団法人 日本獣医師会

ブース出展で参加し、当法人の事業紹介とともに、障害者自立支援事業および野生動物有効活用事業として製造している犬用手作りおやつ「あったらい

いなシリーズ」の販売を行った。

参加報告は当法人ウェブサイトに掲載し、メールマガジンで報告掲載の紹介を行った。

2. 教育事業

人と動物のより良い共生を進めるために役立つ情報を、主にインターネットを通して幅広く提供。実施した会議やシンポジウム、講演会等の貴重な内容については、可能な限りウェブサイト上で、日英両文にて公開し、当日会場に来られなかった全世界の不特定多数を対象に教育の機会を設ける。

また、人と動物のより良い共生を推進する為、一般市民はもとより、関わる専門家、学生等にとっても有益な知識、情報を提供するべく国際会議、セミナー、研修会イベント等を実施、その他学校の教育事業に協力する等、人材の育成、知識の向上、児童及び青少年の健全育成に貢献する。この事業の一環として動物を伴って教育事業を行うこともあることから、第一種動物取扱業（展示）の登録が必要となる。

(1) 情報提供による教育機会の提供

【令和5年度事業計画】

人と動物のより良い共生の推進の為に、開催する国際会議、シンポジウム、セミナー等の内容は、全て後日、記録集（可能なものについては、日英両文にて制作）としてウェブサイト上で無料公開し、会場に来られなかった不特定多数の方々へ教育の機会を提供する。機会があれば随時、セミナー、講演会を実施し、情報と教育の機会を提供する。

また、海外の文献を翻訳し、人と動物の共生に関わる情報を提供していく。

【令和5年度実施】

・ウェブサイト <https://knots.or.jp/>

研修やセミナー等の参加者募集案内や当法人が主催（奈良県うだ・アニマルパーク振興室と共催）した「いのちの教育」研修会（2－（3）奈良県「いのちの教育」連携協定事業）の報告のほか、当法人職員が参加したセミナー、イベント等の参加報告を掲載するなど、随時更新を行っており、研修やセミナー等の報告を通して、来場できなかった方々への教育の機会を提供した。産業情報新聞ペット&Lifeに定期的に掲載していただいている「PIIA Knots リレーエッセイ」では、「人も（人以外の）動物も幸せな共生」をテーマに、識者の皆様よりメッセージを頂き、業として関わる方々にも、最新の概念をお伝えしていく機会としており、ペット&Lifeに掲載された「PIIA Knots リレーエッセイ」は、Knots ウェブサイトにも掲載した。ウェブサイトの更新情報はメールマガジンの配信を通して広く周知を図っている。

（1－（11）情報提供事業でもある）

・メールマガジン（Knots Club News）の配信

当法人事業の成果を広く共有し、人と動物のより良い共生およびSDGs推進に役立たせていただけるよう、メールマガジンの配信を通して、人と動物の共生およびSDGs推進に係る情報を提供した。

毎月1回の配信を目指し305号～320号のほか、臨時号、特集号の配信を行った。当法人が包括連携協定を締結している兵庫県多可町（6. SDGs推進事業—One World, One Life—）のSDGs推進に関する情報や、神戸市より運営を受託している「こうべ動物共生センター」（6. SDGs推進事業—One World, One Life—）の各月の参加者募集プログラムの案内およびプログラム実施報告、あったらいいなシリーズ犬用おやつ（4. 障害者の自立支援事業および1—（8）野生動物有効活用推進事業）の開発・販売情報、他団体のセミナー情報等のほか、主な配信内容は、1—（11）情報提供事業で示したとおりであり、各種研修会やセミナー開催情報だけでなく、開催報告、参加報告等の情報提供を行うことで、参加できなかった方々への教育の機会も提供した。

（1—（11）情報提供事業でもある）

・産業情報新聞ペット&Life「PIIA Knots リレーエッセイ」記事連載

「人も(人以外の)動物も幸せな共生」をテーマに、識者の皆様よりメッセージを頂き、業として関わる方々にも、最新の概念をお伝えしていく機会とした。ペット&Lifeに掲載された「PIIA Knots リレーエッセイ」は、Knots ウェブサイトにも掲載し、メールマガジンで掲載をお知らせして情報を提供した。

（2）講師の派遣

【令和5年度事業計画】

専門学校、セミナー等への講師派遣を随時実施、人材育成、知識の向上及び青少年の健全育成に貢献する。

【令和5年度実施】

なし

（3）奈良県「いのちの教育」連携協定事業

【令和5年度実施計画】

平成24年度（2012年度）に奈良県と締結した『奈良県いのちの教育展開事業』に於ける連携協定に基づき、奈良県「いのちの教育」プログラムの普及を奈良県と共に推進する。動物を通じた教育は、いのちを大切にし、共感力を育む教育として文部科学省の指導要領にも盛り込まれており、アジア型ヒューメイン・エデュケーション構築に取り組み、人も動物もお互いを思いやれる未来へ寄与するものである。この事業は、主に、自治体等の教育に関連する職員等に対してこ

のプログラムを軸とした研修会、講演会等を実施する。これらの取り組みの成果や研究発表はウェブサイトで多くの方に無料で公開することで教育の機会を提供、また、このウェブサイトを読覧した方への啓発にもなる。多くの自治体職員や教育関係者がメールマガジンなどの情報でサイトの内容を見ていただくことにより、他府県での教育ツール導入のきっかけを創出し、より多くの子どもたちが奈良県「いのちの教育」プログラムを受けることができる仕組みを提供している。この事業を通じて、いのちに対する責任が生まれ、思いやりの心も養われ、豊かな人間性を涵養する。

当年度は奈良県うだ・アニマルパーク振興室と共に、「いのちの教育」研修会を開催するほか、6. SDGs 推進事業—One World, One Life—の「こうべ動物共生センター」管理運営業務において、「いのちの教育」プログラムを実施する。また、助成金申請中ではあるが、助成金が交付された際には、教育に予算のつきにくい自治体を対象に（2自治体）、「いのちの教育」プログラム実施のための支援パッケージを提供し、教材支援、授業実施研修、アフターフォローを行うプロジェクト「「いのちが調和する社会」の実現に向けて～奈良県「いのちの教育」プログラムの普及展開」を実施する予定である。

【令和5年度実施】

- ・奈良県「いのちの教育」研修会開催（2023年11月9日）

関西エリアだけでなく、鹿児島県など遠方から関係者が参加。各地で実際に子どもたちに接している現場の職員が一同に介して情報交換ができる機会はなかなかないため、「動物のいのち」を通した子どもの教育の情報発信拠点として重要な役割を担っている。

開催日：2023年11月9日（木）

開催場所：奈良県うだ・アニマルパーク 振興室 動物学習館

主催：奈良県うだ・アニマルパーク振興室、公益社団法人 Knots

後援：奈良県教育委員会／宇陀市教育委員会／公益社団法人日本動物病院協会／公益社団法人奈良県獣医師会

内容：

- ・主催者挨拶（うだ・アニマルパーク振興室 古川室長／公益社団法人 Knots 冨永代表理事）
- ・授業見学（小学生プログラムⅡ 共感）～A 小学校～（45分授業）
- ・うだ・アニマルパーク「いのちの教育」の経緯及び取組について
- ・模擬授業 小学生プログラムⅠ 気づき（45分授業）
- ・模擬授業 小学生プログラムⅢ 責任（45分授業）
- ・小学生プログラムの現状と評価（アンケートの結果）報告
- ・今後の動物愛護教育について意見交換
- ・動物愛護センター施設見学（希望者のみ）
- ・小学生プログラムⅢ 責任 ～概要紹介（希望者のみ）
- ・「いのちの教育」中高生プログラム概要紹介（希望者のみ）

- ・ウェブサイト掲載やメールマガジン配信による研修会情報提供
上記日程で開催の奈良県「いのちの教育」研修会開催情報、参加者募集、研修会報告について、広く情報提供を行った。当年度の研修会には、全国 10 自治体（鹿児島県、滋賀県、京都府、兵庫県、四日市市、京都市、大阪市、高槻市、寝屋川市、姫路市）からの参加があったほか、教育を専門に学ぶ大学院生の参加もあった。研修会では、「いのちの教育」プログラムの授業見学や奈良県の取組について情報を得るだけでなく、各自治体での「いのちの教育」プログラムをはじめとした教育事業の実施状況や各自治体が抱えている課題を共有して情報交流を行っている。研修会報告だけでなく、参加された自治体で実施されている「いのちの教育」の情報についてもウェブサイトに掲載し、メールマガジンで報告掲載について広く発信することで情報提供および教育の機会の提供を行った。このような報告を通して、研修会への参加意欲を促し、自らの自治体が抱える課題などを見つめ直すことができるきっかけを与えている。
- ・奈良県「いのちの教育」研究協議会（6月23日（金）／12月11日（月））
奈良県「いのちの教育」展開事業は、上記協議会にて実施内容の検討・方向性の決定が行われている。当法人代表理事が、令和5年6月まで副会長を務め、副会長職の廃止に伴い、以降は委員として参画している。
- ・第2回奈良県「いのちの作文コンクール」
奈良県「いのちの教育」展開事業が継続される中で奈良県教育委員会主催の第2回奈良県「いのちの作文コンクール」が開催され、4,200通を超える応募があった。富永代表理事が審査委員を務め、「いのちの作文コンクール」作品集に講評が掲載された。2024年2月18日（日）には奈良県「いのちの作文コンクール」表彰式が奈良県うだ・アニマルパーク振興室 動物学習館において開催され、富永代表理事が参列し、講評を述べた。
- ・「2023 サマースクール in うだ・アニマルパーク」チャレンジC「張り子作り教室」
奈良県・うだ・アニマルパークで毎年夏休みに開催されている、「サマースクール in うだ・アニマルパーク」が、8月22、23日の2日間にわたって開催された。動物との関わりをテーマにしたサマースクールのプログラムはチャレンジA～Cの4種類があり、チャレンジCの「張り子作り教室」は、当法人代表理事兼企画教育部長の小椋が講師になって実施した。

（4）教育ツール共有事業

【令和5年度事業計画】

現在、全国の動物愛護（管理）センターなどでは、「いのちの大切さ」や「適正飼養」「殺処分数減少」を目的とした、子どもたちへの教育活動の必要性に対する認識が高まっている。

こうした現状を踏まえ、これまでに各地の動物愛護（管理）センターと共に企画開発を行い、すでに導入されて教育現場で実績のある動物愛護教育およびヒューメイン・エデュケーションに関するツール類を共有する事業を展開する。また、使用実績や実施レポートなどの情報を報告し、日本におけるヒューメイン・エデュケーションの向上と各自治体間の連携の促進を図り、少しでも多くの自治体で人と動物のより良い共生の推進を図ることで、心豊かな社会の実現を目指す。

多くの自治体で使用されている実績を持つ「いのちの教育」プログラムは、すでに完成された内容の実施プログラムであるため、その内容は変更することなく、使用する動物の種類を地域性に合わせて変化させたり、各自治体で独自に実施している内容と組み合わせて実施することによって、より地域に根ざした教育効果をあげる工夫を行っている。「いのちの大切さ」や「適正飼養」「殺処分減少」を目的とした、子どもたちへの教育活動の普及啓発にとって非常に有益な手段である。

当年度は、2. 教育事業（3）奈良県「いのちの教育」連携協定事業におけるプロジェクト「「いのちが調和する社会」の実現に向けて～奈良県「いのちの教育」プログラムの普及展開」の実施用大型張り子セットの制作のほか、自治体等からの相談に応じ、ニーズに合わせて教育ツール類の制作・提供を行う。

【令和5年度実施】

- ・奈良県うだ・アニマルパーク振興室より、「いのちの教育」プログラムで使用する教材の修理・制作依頼に対応した。
- ・兵庫県明石市 市民生活局（あかし動物センター）
前年度制作の多頭飼育崩壊防止啓発用ポスターおよびペット啓発チラシが明石市民に配布され活用された。

3. 研究事業

人と動物のより良い共生及び SDGs を推進する為に必要な情報収集と研究を行い、その情報を幅広く提供することで、啓発、教育事業を行う。

また、企業、行政、団体等からの依頼により、人と動物の共生に関わる調査研究等実施する。啓発、教育、研究いずれの事業を実施する場合においても、国内外の関係団体、個人、企業、行政機関の連携、協力は不可欠である。

【令和5年度事業計画】

当年度は継続して「神戸市人と猫との共生推進協議会」へ参画（当法人は監事を務めている）。当法人の受託事業である「こうべ動物共生センター管理運営業務」（6. SDGs 推進事業—One World, One Life—）において、こうべ動物共生センター内に「神戸市人と猫との共生に関する条例」「神戸市人と猫との共生推進協議会」の紹介パネルの展示、紹介ポスターの掲示を行い「神戸市人と猫との共生推進協議会」の活動について情報発信を行う。また、「神戸市人と猫との共生推進協議会」主催の保護猫譲渡会がこうべ動物共生センターにおいて開催される際にはサポートを行う。

【令和5年度実施】

- ・こうべ動物共生センターにおける啓発
「神戸市人と猫との共生に関する条例」「神戸市人と猫との共生推進協議会」の紹介パネルの展示、紹介ポスターの掲示を行い、デジタルサイネージを活用して「神戸市人と猫との共生推進協議会」の活動について情報発信を行った。併せて「神戸市人と猫との共生に関するガイドライン」（神戸市人と猫との共生推進協議会発行）の概要版および野良猫版を市民に配布し、当該条例と当該協議会について周知を図った。
- ・神戸市人と猫との共生推進協議会定例会議への出席
第1回：2023年5月15日（月）
第2回：2023年11月20日（月）
第3回：2024年3月28日（木）
- ・神戸市人と猫との共生推進協議会主催保護猫譲渡会サポート
開催日：2023年10月1日（日）
開催場所：こうべ動物共生センター
- ・神戸市人と猫との共生推進協議会／公益社団法人神戸市獣医師会 共催研修会『動物をめぐる問題と法律について』参加
開催日：2023年10月8日（日）
開催場所：神戸市中央区文化センター 1103・1104 会議室

4. 障害者の自立支援事業

当法人が販売している安全安心な犬用手作りおやつのだんごは NPO 法人おーけすとら・ぴっと就労継続支援（B 型）事業所 Patch（パッチ）に製造を担当していただいている。また、開発より関わっていただき、新商品の開発も共に行っている。2002 年に Patch の創設者より「Patch は、障害者の方が製造したものであるから、と同情で商品を購入していただくのではなく、正当な評価のもと、一般の商品と競争出来る商品作りを行うことで、障害者方々が社会参加出来る作業所を目指したい」という相談があった。

そこで、意識の高い飼い主のニーズに合った安全、安心な犬用おやつを販売することが、障害者の方々の自立支援となるのではないかとということで、一緒に開発、製造、販売に取り組むこととなった。その後、Patch は製造担当として品質管理等にも注力され、商品の品質も認められて、今では多くの顧客が定期的購入をして下さっている。その結果、モデル作業所として認められ、他所からの視察も多い。

また、この事業の推進によって、障害者の方々が仕事に対するやりがいを感じ、当初の目的であった、メンバーの方達の通所費用を賄えるところまで、運営は進んだ。今後もこういった形での自立支援を行っていききたい。

【令和5年度事業計画】

当年度は、アレルギーに対応した新商品の開発を予定しており、販売網の拡大につなげ、自立支援・社会参加を支えていく。

【令和5年度実施】

- ・あったらいいなシリーズ犬用クッキー等の販売
動物病院等への卸売、Knots Shop（ネットショップでの小売）での販売のほか、「国際盲導犬デー in 神戸」、「しあわせの村まつり」「こうべ福祉・健康フェア」「2023 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」（1－（11）情報提供事業）で出店（出展）販売を行った。
- ・あったらいいなシリーズ犬用クッキーの新商品開発・販売開始
2022 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”（1－（11）情報提供事業）で出展販売を行った際にお客様から頂いたお声をもとに、原材料に米粉を使用したクッキーの開発を行い、2023年5月より販売を開始した。
- ・播州鹿を使用した犬用おやつの販売（1－（8）野生動物有効活用推進事業でもある）
動物病院等への卸売、Knots Shop（ネットショップでの小売）での販売のほか、「国際盲導犬デー in 神戸」、「しあわせの村まつり」「こうべ福祉・健康フェア」「2023 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」（1－（11）情報提供事業）で出店（出展）販売を行った。
- ・あったらいいなシリーズ犬用クッキー、ひょうごニホンジカミートの商品セットを兵庫県および神戸市のふるさと納税返礼品に登録し、返礼品希望者に商品を発送した。
- ・あったらいいなシリーズ犬用クッキー、ひょうごニホンジカミートの商品セットを当法人に対する寄附への返礼品とし、一般寄附者に返礼品を贈った。

5. ペットと暮らす住まいに係る支援金助成事業

1. 啓発事業（5）「ずっと一緒に居ようよ プロジェクト」の一環として行う被災した被害者に対するペット可物件への入居費用の助成は、毎年計画的に実施するものではなく、発生した災害が激甚災害として指定された時に緊急的に実施する。ペットと一緒に生活できる環境を取り戻すことで被災者の自立を支援し、被災者が立ち直っていく姿を周囲の方々にも見て頂き、ペットと一緒に暮らすことの大切さを理解して頂くことで啓発にもなる。

<助成事業の概要>

事業の目的：当法人は、人と動物のより良い共生の推進を図り、人そして動物の福祉の向上に資することを目的としており、この事業は、被災の程度、ペットの種類に関わらず、家族の一員であるペットと一緒に暮らすことができるように、入居する際の費用を支援するために行う。

寄附金の募集：当法人のウェブサイト等で寄附金募集を周知するが、寄附金の用途について、ペット可物件への入居費用に充てることを趣旨とし、併せて支援金の振込手数料等への充当、残金の処理方法についても明示した上、寄附金を募集する。

支給額と残金処理方法：支給額は、集まった寄附金の範囲内で、理事会において決定するが、寄附金の残金が生じないよう努めるとともに、やむを得ず残金が生じた場合

は、その後の別の激甚災害の支援金助成事業の原資とし、それ以降も同様の処理をし、目的外使用はできないものとする。

確認体制：当法人アドバイザリーボードメンバーの内2名が、必要書類等を確認する。この確認結果に基づいて、理事会が支給の可否を決定し、その結果を申請者及び宅建業者に通知する。

【令和5年度実施】

令和6年1月1日発災の能登半島地震が激甚災害に指定されたことを受け、緊急理事会での承認により、『ずっと一緒に居ようよプロジェクト 令和6年能登半島地震被災者のペット可物件入居支援金』助成事業を開始した。（1-（5）「ずっと一緒に居ようよプロジェクト」でもある）

<広報>

- ・助成事業のページをウェブサイト公開
- ・メールマガジン配信
- ・関係団体の方々に個別でメールにてご案内
- ・プレスリリース（1月22日）

読売新聞社（1月26日取材、2月11日兵庫県地域版掲載）

共同通信社（1月24日、2月1日取材、2月20日配信）共同通信社の配信を受け、日本経済新聞夕刊社会面に掲載（2月21日）

関西テレビ（2月24日富永代表理事 被災者の心の拠りどころとなるペットの存在と災害時のペットの課題について電話取材、2月26日「newsランナー」（関西ローカル）特集枠にて放映）

<助成申込>令和6年3月31日現在1件（仲介業者からの連絡待ち）

<寄附金額>令和6年3月31日現在6件 135,000円

6. SDGs 推進事業 —One World, One Life—

誰一人取り残さない社会を目指す国連のSDGsの17の目標を達成するため、日本でも政府が“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”をキーワードに、あらゆるステークホルダーの参画を重視し、官民の垣根を超えた形で連携を推進する指針を掲げている。

当法人の事業において、SDGsの17の目標の多くに貢献してきており、特にゴール17の「パートナーシップで目標を達成しよう」というのは、自治体や企業・他団体との連携を図り課題を解決してきたKnotsの在り方そのものである。

人も動物も幸せな社会に向けての事業を継続してきた中で、「人もまた生き物である」という視点から生まれた、「りぶ・らぶ・あにまらず ICAC KOBE 2015 第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015」のテーマ「One World, One Life —ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく—」を、当法人設立20周年を迎えての次のステップへのテーマとした。この概念はSDGsと目標を同じくするものであり、今後もステークホルダーとして更なる貢献ができるよう、行政機関や他団体・企業と連携を図り、SDGsを推進する事業を行う。

SDGsの推進のために必要な様々な情報収集と研究を行い、セミナーや体験活動等

の実施を通して人材育成・教育の機会を設ける。希望すれば誰もが学べるよう、リモートでの参加や実施した記録・資料を可能な限りウェブサイトで公開する等、幅広い情報提供を行い、フェスティバル等のイベントにおいても、情報発信を行う。また、SDGs を推進し、誰一人取り残さない社会の実現の為に、必要な相談業務を行い、支援を必要とする人が必要な支援を受けられるよう関係機関と連携を図る。

令和5年度は、以下の3つを行う。

1) 「兵庫県多可町での SDGs 事業推進」

【令和5年度事業計画】

兵庫県多可町での SDGs 推進にあたっては、令和3年度6月に多可町と締結した包括連携協定に基づき、SDGs 普及展開業務を進めてきた。内閣府の令和4年度 SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業選定の提案書作成のサポートを行い、多可町は令和4年度 SDGs 未来都市に選定された。担当課である企画秘書課においては、「SDGs 登録制度」の普及、住民参加型のオープンイノベーションプラットフォーム「クリアグリーン TAKA」の立ち上げ、講演会・勉強会等の開催、共創のまちづくり支援事業補助に着手する予定であり、必要に応じて支援を行う。

【令和5年度実施】

<兵庫県多可町での SDGs 事業推進>

令和3年6月21日に包括連携協定を締結した多可町は、令和4年度 SDGs 未来都市に選定された後、多可町役場の様々な部署で、森林ビジョン会議の開催や健康ウォーキング・エビデンス調査、区長会での SDGs 研修、木育などを実施してきた。そのような準備期間を経て、当年度は以下の取組を行った。

- ・官民連携によるオープンイノベーションプラットフォーム「クリアグリーン TAKA」発足式

当法人代表理事・冨永佳与子と当法人理事兼企画教育部長・小椋聡が出席し、冨永代表理事が参加者にメッセージを述べた。

開催日：2023年7月24日（月）

開催場所：多可町役場

「クリアグリーン TAKA」は、「多可町 SDGs 登録制度」に登録された事業者・個人と外部の企業や大学、金融機関等との交流連携をする住民参加型のオープンイノベーションプラットフォームの名称で、このプラットフォームから生み出されるイノベーションによって、生活関連の課題解決やまちの資源を基盤とする新事業の創出など、多岐にわたる成果で課題解決を行っていく。

- ・多可町 SDGs 登録事業者懇談会

当法人理事兼企画教育部長・小椋聡が出席

開催日：2024年3月14日（木）

開催場所：多可町役場

クリアグリーン TAKA における今後の活動について、登録事業者から問題点・課題点・提案等が出された。

2) 「神戸市での「こうべ動物共生センター」管理運営業務」

【令和5年度事業計画】

令和5年度こうべ動物共生センター管理運営業務委託公募型プロポーザルで当法人が継続して受託することとなり、受託期間は令和6年3月31日までで、2年間延長される予定である。仕様書に基づき、以下の事業を実施する。

・受託者企画事業

「セラピー研究フィールド」

人と動物相互の科学的影響を明らかにし、広く市民生活の質の向上に貢献し、国内外へ情報発信できるよう、国内外の専門家による研究フィールドを構築し、令和3、4年度は、アニマルセラピー動物ふれあい事業の「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」において、犬に本の読み聞かせを行う子どもの様子を動画で撮影し、感情分析ソフトを使ったデータ分析やアンケート調査などを用いて、認知機能・精神状態に与える影響の実証的検証を行った。この子どもを対象とした研究は、令和4年7月に「神戸市保健事業に係る研究倫理審査委員会」において、神戸市の研究として正式に承認された。また、犬に対してはウェアラブルデバイスのペットバイタルセンサー装着による心拍計測、および唾液採取による自律神経活動指標の評価と、参加中の様子のビデオ撮影を行い、行動からストレス反応の評価を行った。人の側からと犬の側からの研究を同時に行い、人と犬相互の科学的影響を調査・研究しており、令和5年度も継続して実施し、調査・研究の成果は、個人情報に配慮した上で、こうべ動物共生センター専用ウェブサイト上で提供し、市民への利便を図ると共に、国内外へ情報発信する。

「こうべ動物共生プラットフォームの構築」

1. 啓発事業（5）ずっと一緒に居ようプロジェクトにおいては、平時においても人と動物が絆を保ち幸せに暮らせるような社会システムを構築するため、その方策を議論研究して提案し、これらの情報を発信している。2015年の国際会議（ICAC KOBE）では、分科シンポジウムの中の1つとして「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム—伴侶（家庭）動物の暮らしを地域活性へ」というテーマで数名の方の発表があり、人と伴侶動物が地域で共に幸せな生活ができ、尚且つそれが地域の活性に活かされるような社会システムを構築することができるのか、その可能性について考察し、このシンポジウムの成果を論文にまとめたものがシニア社会学会誌に掲載された。この論文は、全文をウェブサイトにて公開、情報を発信し、こうべ動物共生センターの視察・見学に来訪される自治体関係者等にも配布し、その実現化を支援している。これまでの事業の経験を通して、「人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせる社会」実現の重要性を感じ、この成果を活用して、令和3年度の本業務の公募型プロポーザル企画提案時より、《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築を提案してきた。令和3年度、4年度は、新型コロナウイルスの影響で関係部局との調整が困難であったが、当年度より《こうべ動物共生プラットフォーム》を構築

し、人と動物の共生に関わる様々な課題の解決を目指し、関連団体や動物取扱業登録事業者、関連事業の事業者、ボランティア等や原則として各地域の中学校区ごとに一つある地域包括支援センターや社会福祉協議会、自治会、病院、学校等とも連携・協働し「人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせるSDGs視点を持ったあたたかな神戸市」を実現する。

「市民へのセンター成果のフィードバック及び課題収集」

専用ウェブサイトでの情報発信のほか、「出沒・こうべ動物共生センター」（出前型事業）として、1月17日（阪神・淡路大震災）前後に開催される防災イベント等を想定し、防災と関連付けて防災イベント等とのコラボレーションにより、関連機関と相談・調整の上、各区で年に1回「しつけ方教室」「飼育相談」「身体障害者補助犬の普及啓発」等の実施を目指す。

「こうべ動物共生情報の提供・収集」

こうべ動物共生センター専用ウェブサイト上に「こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー」を設け、ペットとの暮らしを支える獣医療、しつけ方教室、ペットと入居可能な住宅や施設などの情報や、イベント情報、ペットが入れる避難所などの防災情報などの共生支援情報を提供する。

- ・アニマルセラピー 動物ふれあい事業

「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」（セラピー研究フィールド事業）

子どもが犬に本の読み聞かせを行うことで音読が苦手な子どもが自信を失うことなく意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できると共に自己肯定感を持てるようになり、犬との関わりを通して心の成長を促すことを目的としたプログラムを実施する。

- ・子どもを対象にした動物共生教育事業

「獣医師体験プログラム」

幅広い獣医師の世界を体験し、学びを深めることにより、人と動物の共生とは、人の生活に深く関わるものであることへの気づきを促し、様々な人と動物の共生の在り方についての理解を深めるプログラムを実施する。プログラムの監修は、獣医師・獣医学博士で当法人監事である堀尾政博先生が行っている。

「犬とともにだちになろう」

犬との接し方を学ぶことで、思いもかけない咬傷事故を予防するだけでなく、犬（他者）のきもちを想像したり、寄り添うきもちの大切さを考えるきっかけを与え、心臓の音を聞く拡張心音計（心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械）を用い、犬や子どもたちそれぞれの心音を聞くことで、音の違い、速さの違いといった違いに気づき、自分や自分以外の「いのち」の大切さ、「いのち」への共感ができる子どもを育てることを目的としたプログラムを実施する。

「いきものといっしょ」

神戸市副読本「いきものといっしょ～みぢかなどうぶつに目をむけてみよう～」を活用し、動物たちのきもちについて考えるプログラムを実施し、

他者に対する共感や思いやりといった情操や、動物や自然に対する理解や責任といった態度の醸成を図る。

「いのちの教育」プログラム

子どもたちがいのちの大切さや自らの責任について考えるプログラムとして、すでに多くの自治体で導入実績がある奈良県「いのちの教育」プログラムを実施する。令和4年度は神戸市内の小学校1校で実施したが、令和5年度も同校で実施する。今後、実施校を増やしていけるよう、市教育委員会等に相談していく。

・ 飼い方相談事業

プログラム構築のため、有識者・経験者で「適正飼養アドバイザー会議」を設置し、会議の中で開催教室について協議し、以下のとおり実施する。

「老犬との暮らし方教室」

老犬とその飼い主を対象に、老犬の適切な飼養等について学ぶプログラムを実施する

「和犬教室」

「自立心旺盛」「頑固」「警戒心が強い」という性格の特性を持つ1歳未満の和犬とその飼い主を対象としたしつけ方教室を実施する。

「お散歩診断」

日常の散歩で困っている飼い主を対象に専門家から適切なアドバイスをもらい、犬も人も安全に楽しく散歩し、困りごとの解消を図るプログラムを実施する。

「楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！」

基本的なしつけを基に様々な動きを組み合わせる音楽に合わせて人と犬と一緒にダンスをすることで、飼い主と犬とのコミュニケーションが深まり、楽しくしつけを学ぶプログラムを実施する。

・ 犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

電話・メールによる相談（随時）と、月に2回の事前予約制で来所による相談業務を行う。また、子犬の将来の問題行動の予防につなげるため、生後4ヶ月齢までの子犬とその飼い主を対象とした「子犬のしつけ方相談会」を実施する。

・ 身体障害者補助犬の普及啓発事業

「介助犬と歩こう！」

身体障害者補助犬とのふれあいを通して身体障害者補助犬に対する社会的理解を深め、障害のある人もない人も、共に幸せに暮らすことができる「誰も取り残さない」社会の実現を目指し、認定特定非営利活動法人兵庫介助犬協会の協力を得て、介助犬との交流や介助犬のデモンストレーション等を通して、身体障害者補助犬の普及啓発を行う。

【令和5年度実施】

< こうべ動物共生センター管理運営業務 >

神戸市の仕様書に基づき、以下のとおり業務を行った。

《共生センター開所実績》310日（休館日：火曜日・年末年始の閉庁日）

・受託者企画事業

「セラピー研究フィールド」

人と動物相互の科学的影響を明らかにし、広く市民生活の質の向上に貢献し、国内外へ情報発信できるよう、令和3年度に国内外の専門家による研究フィールドを構築した。調査・研究の成果は、個人情報に配慮した上で、こうべ動物共生センターウェブサイト上で提供し、市民への利便を図ると共に、国内外へ情報発信を行う。セラピー研究フィールドアドバイザーを以下の先生方に務めていただいている。

<セラピー研究フィールドアドバイザーの先生方>

《国内アドバイザー》

中山裕之先生（東京大学名誉教授／動物医療センターPeco 獣医療研究所長）

土居裕和先生（長岡技術科学大学工学研究院情報・経営システム系 准教授）

柴内裕子先生（赤坂動物病院総院長／公益社団法人日本動物病院協会相談役）

加藤元先生（ダクタリ動物病院総合院長・コロラド州立獣医科大学客員教授
兼アンバサダー）

島村俊介先生（大阪公立大学 獣医学部 小動物臨床医学 准教授）

《海外アドバイザー》

木下美也子先生（グリーン・チムニーズ&ファーム サム&マイラ・ロス研究所教育
プログラム部長／神戸市出身・アメリカ）

Andrea Beetz 先生（MA 心理学／博士号（心理学）／博士号（特殊教育）特別・イン
クルーシブ教育教授IU 国際応用科学大学・ドイツ）

令和5年度は、アニマルセラピー 動物ふれあい事業「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」をセラピー研究フィールドにおいて実施した。調査・研究の成果は、個人情報に配慮した上で、こうべ動物共生センター専用ウェブサイト上で提供し、市民への利便を図ると共に、国内外へ情報発信する。

「こうべ動物共生プラットフォームの構築」

新型コロナウイルスの影響により令和5年度に持ち越しとなっていたが、年度途中で別の新規事業実施が決まる等予算変更措置のため事業内容の見直しとなり、令和6年度以降に持ち越しとなった。

市民がプラットフォーム上で自身の課題解決を相談し、サービスを活用できるよう、引き続き「こうべ動物共生プラットフォームの構築」については神戸市と調整していく予定である。

「市民へのセンター成果のフィードバック及び課題収集」

・専用ウェブサイトでの情報発信

・「出没・こうべ動物共生センター」（出前型事業）

防災と関連付けて防災イベント等とのコラボレーションにより、各区で年に1回「しつけ方教室」「飼育相談」「身体障害者補助犬の普及啓発」等の実

施を目指し、1月17日（阪神・淡路大震災）前後に開催される防災イベント等を想定して各区のまちづくり課等との連携を検討したが、他の新規事業実施による予算変更措置のため事業内容の見直しとなり、各区での開催は実施できず、こうべ動物共生センターにおける「防災わんにゃんフェスタ（主催：神戸市）」の実施となった（令和6年1月21日（日））。「防災わんにゃんフェスタ」は令和6年度はこうべ動物共生センター主催事業として行う予定である。

各地域で開催されるイベントについては、神戸まつりの前祭である神戸市北区の「きたきたまつり」（2023年5月20日（土）開催）に出店し、こうべ動物共生センターの事業PRを行った。

「こうべ動物共生情報の提供・収集」

こうべ動物共生センター専用ウェブサイト上に「こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー」を設け、ペットとの暮らしを支える獣医療、しつけ方教室、ペットと入居可能な住宅や施設などの情報や、イベント情報、ペットが入れる避難所などの防災情報などの共生支援情報を提供する。当年度はこうべ動物共生プラットフォームの構築を実施できなかったため、専用ウェブサイトにおいても「こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー」を設けることができず、令和6年度以降に持ち越しとなった。

・アニマルセラピー 動物ふれあい事業

「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」 12回

「出張！わんちゃん読書会」（新規事業） 1回

出張開催の要望に対応し、こども本の森 神戸にて実施した。

「わんちゃんお出かけセラピー」（新規事業） 2回

高齢者・障がい者にとって、動物と触れ合うことは、心に安らぎを生むとともに、体を動かす機会にもなり、日常生活での活動への意欲の向上につながると言われてしている。「わんちゃんお出かけセラピー」では、高齢者・障がい者施設等を訪問して、犬と一緒に楽しい時間を過ごしてもらうプログラムとして当年度内の実施が決まり、しあわせの村内の神港園しあわせの家で開催した。

・子どもを対象とした動物共生教育事業

「獣医師体験プログラム」 12回

・「水族園のお医者さん」（水族館）（1日2回）

〔協力：神戸市立須磨海浜水族園〕 小学校低学年・小学校高学年～中学生

・「野生動物との共生」（野生動物）（1日2回）

〔協力：株式会社野生動物保護管理事務所〕 小学校低学年・小学校高学年～中学生

・「多様な動物が生きる「地球」という環境」（動物園）

〔協力：神戸市立王子動物園〕

・「公務員としての獣医さんの仕事」（公務員）

〔協力：神戸市西部衛生監視事務所〕

- ・「いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには」(小動物) (1日2回)
〔協力：大阪公立大学獣医学研究科〕 小学校低学年・小学校高学年～中学生
- ・「身近な大動物・牛」(大動物) 〔協力：芝崎牛の診療所〕
- ・「感染症って何？」(公衆衛生)〔協力：大阪公立大学獣医学研究科〕
- ・「私たちの暮らしと動物との関わり」(産業動物)
〔協力：兵庫県農業共済組合阪神家畜診療所(神戸市立六甲山牧場)〕
- ・「人と共に生きてきた馬について」(大動物)
〔協力：大阪公立大学獣医学研究科／公益社団法人神戸乗馬倶楽部〕

「犬とともにだちになろう」 6回

「いきものといっしょ」 20回

「いのちの教育」プログラム

- ・神戸市立泉台小学校 2年生2クラス
- ・神戸市立真陽小学校 3年生2クラス

「VRで体験！犬猫との暮らし」(新規事業) 2回

生身の動物に触れる前に疑似体験を経験できるツール(VR)の活用をとおして、動物の習性や行動について理解を深める。動物アレルギーを持つ子どもにも参加してもらえ、犬猫との正しい接し方や適切な飼育について学び、動物の気持ちを想像し、実際に動物に接する時にはどんなことに気をつけたらいいのかを子どもたちが自ら考え、他者に対する共感や思いやりの心を育てる。環境省発行の冊子「どうぶつといっしょにくらそう」を活用し動物の気持ちを考える。

「ペットとの災害避難マップ」を作ってみよう！(新規事業) 説明会2回
阪神・淡路大震災から28年目となる令和5年8月、神戸市では「災害時のペットとの避難ガイドライン」をまとめ、公開した。

一般社団法人日本損害保険協会では、阪神・淡路大震災をきっかけに防災教育や地域防災の重要性が明らかになったことから、「ぼうさい探検隊」という実践的な安全教育プログラムを活用し、「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」を毎年開催されている。このコンクールとコラボレーションし、子どもが楽しみながら防災意識を高めつつ、同行避難の重要性を理解する取り組みを行うことになった。

「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」への応募推進とともに、神戸市でも「ペットとの災害避難マップ展示会」を開催することとし、当年度は2組2作品の応募があった。この2作品は「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」にも応募され、共に佳作に入選した。

〔協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／こども本の森 神戸〕

<説明会>

令和5年9月18日(月・祝) こども本の森 神戸

令和5年9月24日(日) こうべ動物共生センター

<表彰式>

令和6年1月21日(日) こうべ動物共生センター

「防災わんにゃんフェスタ」において表彰式を行い、2組には「あいおい

ニッセイ同和損保賞」「こうべ動物共生センター長賞」が贈られた。表彰された2作品は、こうべ動物共生センターふれあい室に展示し、啓発に活用している。

- ・飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）
プログラム構築のため、有識者・経験者で「**適正飼養アドバイザー会議**」を設置し、以下の機能を持たせる。
 - ①共生センターのしつけ方教室・しつけ相談のプログラム構成
 - ②上記プログラム実施に向けてのアドバイス
 - ③各区での教室・相談に対応できる体制づくり
 - ④こうべ動物共生プラットフォームの研修体制の整備

<適正飼養アドバイザーの先生方>

《座長》

村田香織先生（獣医師／公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）認定家庭犬しつけインストラクター）

《メンバー》

近藤悦子先生（獣医師／JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター）

中塚圭子先生（JKC公認訓練士／JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター）

適正飼養アドバイザー会議の中で開催教室について協議し、以下のとおり実施した。

「老犬との暮らし方教室」 1回

「和犬教室」 1回

「お散歩診断」 散歩実践6回・座学講習2回

「楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！」 4回

- ・犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）
飼い方相談・犬猫のしつけ相談（電話・メールによる相談、来所による相談）を受け付け、令和5年度は、電話・メールによる相談は129件、来所による相談は31件に対応した。
「子犬のしつけ方相談会」 1回

- ・身体障害者補助犬の普及啓発事業
「教えて！介助犬」（「介助犬と歩こう！」からプログラム名変更） 6回
身体障害者補助犬とのふれあいを通して身体障害者補助犬に対する社会的理解を深め、障害のある人もない人も、共に幸せに暮らすことができる「誰も取り残さない」社会の実現を目指し、以下の日程で実施した。介助犬と共に屋外を歩いて交流し、介助犬のデモンストレーションを通して介助犬等の身体障害者補助犬の普及啓発を図った。
〔協力：認定特定非営利活動法人兵庫介助犬協会〕

- ・専用ウェブサイト <https://kobe-chai.jp>

こうべ動物共生センターのコンセプトや事業内容について情報発信を行うと共に、各事業の参加者募集案内や事業実施レポートを随時更新し、こうべ動物共生センターおよび事業の PR を行った。各種プログラムへの参加はウェブサイトから申込を受け付けている。また、資料・報告を専用ウェブサイト上で提供することで、来所できない市民への利便を図っている。しつけ方教室や飼養相談およびその対策等については事例として紹介して市民に情報を提供している。こうべ動物共生センターで実施している事業の成果を活用し、市民の様々な課題に対し、解決・相談の場が整備されていることを報せている。専用ウェブサイトは日本語だけでなく、英語、ドイツ語、中国語などにも対応し、国内外への情報発信を行った。このように、専用ウェブサイトは、市民がこうべ動物共生センターの事業に参加するなどして関わる「市民とのコミュニケーションの場」として、「国内外への広報」として、重要な役割を担っている。

- ・センターの管理・運営に関する業務としては以下の業務を行った。
電話対応／来所者対応／メール対応／見学・視察対応／取材対応／市主催の事業（犬猫譲渡制度・動物愛護スクール・防災わんにゃんフェスタ等）の補助

こうべ動物共生センター管理運営業務における全ての事業は IAHAIO 白書（IAHAIO 動物介在介入の定義と AAI（動物介在介入 Animal Assisted Interventions）に係る動物の福祉のガイドライン）に沿って実施した。

IAHAIO

IAHAIO は、人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国の Delta Society（現 PetPartners）、フランスの afirac、イギリスの SCAS が中心となって 1992 年に設立した。IAHAIO の使命は、人と動物の相互作用（Human Animal Interaction=HAI）の分野を進歩させるために、国際的な指導力を提供する。

Knots は IAHAIO のフルメンバーになっている。

3) 「ペットも一緒に SDGs！」

【令和 5 年度事業計画】

SDGs をより一般化する試みー「人とペットとの暮らし」の視点を活かした SDGs の取り組みを紹介・推進していくーにより、カーボンニュートラルの取り組み等を通して SDGs 推進に貢献する。その視点を広めるため、ウェブサイト上等で情報発信を行い、呼びかけ・啓発を図る。また、30 年以上前からノーマライゼーションに取り組み、すべての人が健康で文化的な活動に参加できるように整備された SDGs 視点を持ったソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を目指す複合施設である神戸市北区のしあわせの村内の施設と連携し、ペットと共に体を動かし健康維持を図るような取り組みを通して、高齢者や障害者の生活機能維持・自立の支援を行う。

【令和5年度実施内容】

<ペットも一緒にSDGs！>

「ペットも一緒にSDGs！」のカテゴリーにおいては、「人とペットとの暮らし」の視点を活かしたSDGsの取り組みの推進を行った。

昨年行ったカーボンニュートラルに関連する取り組みについては、エンジンをかけたまま車中にペットを置くことを避けたり、人とペットが共にお出かけを楽しむことができることを目的としたペットの待機場所を開設する計画を進める企業からのコンサルティングに継続して対応した。さらに、ペットツーリズムに取り組む一般財団法人神戸観光局監修のペットと一緒に出かけられる観光スポット案内「ペットと旅するKOBE」を、当法人が神戸市より管理運営業務を受託しているこうべ動物共生センターにおいて広く市民に配布した。

さらに、人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム2024『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会ーそれを可能にする環境整備ー』を企画し、準備を進めた。企画概要は以下のとおりである。（1.啓発事業（2）りぶ・らぶ・あにまらずシンポジウムでもある）

開催日時：令和6年10月27日（日）13:00～16:00

開催場所：神戸ポートピアホテル

《第一部》

講演：「動物が人にもたらす健康効果」

講師：谷口 優 先生（国立研究開発法人 国立環境研究所 主任研究員／地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 協力研究員）

《第二部》「人とペットが幸せに暮らせる環境整備をどのように行うか？」

事例発表①：「高齢者の住まい（サービス付高齢者住宅やペットと入れる施設事例）調査」（公益社団法人 Knots）

事例発表②：「ペットツーリズムの推進」（一般財団法人 神戸観光局 専務理事 中西 理香子 氏）

事例発表③：「ITが可能にする飼い主と地域を繋ぐ環境整備ーWan!Passの取り組み事例からー」（ペッツオーライ株式会社 代表取締役 小早川 斉 氏）

質疑応答

II 組織の運営に関する事項

1 社員総会の開催状況

| | 開催年月日 | 主な議決事項等 |
|----|-----------|--|
| 定時 | 令和5年6月13日 | ・第13期計算書類等承認の件（承認可決） ・理事の報酬の額承認の件（承認可決） ・役員を選任の件（承認可決） |

2 理事会の開催状況

| | 開催年月日 | 主な議決事項等 |
|------|-----------|--|
| 第68回 | 令和5年5月28日 | ・令和4年度事業報告の承認の件（承認可決） ・令和4年度（第13期）計算書類の承認の件（承認可決） ・理事の報酬の額承認の件（承認可決） ・役員任期の件（承認可決） ・就業規則一部変更の件（承認可決） ・役員を選任の件（承認可決） ・定時社員総会招集の件（承認） ・職務の執行状況の報告 |
| 第69回 | 令和5年6月13日 | ・代表理事選定の件（承認可決） |
| 第70回 | 令和6年1月15日 | ・令和6年能登半島地震の支援事業開始承認の件（承認可決） ・ペットと暮らす住まいに係る支援金助成実施要領一部変更承認の件（承認可決） |
| 第71回 | 令和6年3月2日 | ・令和6年度事業計画案承認の件（承認可決） ・令和6年度収支予算案承認の件（承認可決） ・職務の執行状況の報告 |

3 役員に関する事項

| 地 位 | 氏 名 |
|--------|--------|
| 代表理事 | 富永 佳与子 |
| 業務執行理事 | 白川 美玖 |
| 業務執行理事 | 小椋 聡 |
| 理 事 | 佐藤 剣 |
| 監 事 | 堀尾 政博 |
| 監 事 | 岡田 裕正 |

4 辞任した役員の氏名

| 地 位 | 氏 名 | 退任月日・退任事由 |
|-----|------|-----------|
| | 該当なし | |

5 法人の運営組織の状況に関する重要な事項

ガバナンスが機能した理事会を運営することは、理事の重要な職務執行であり、これを更に適切に機能させるため、理事の法令等順守に対する認識を高め、理事会でのガバナンス機能の強化に努めた。

Ⅲ その他法人の状況に関する重要な事項

令和 5 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2024年5月
公益社団法人 Knots